

シーシーエス株式会社
2013年7月期
決算説明



2013年9月11日
JASDAQ コード6669

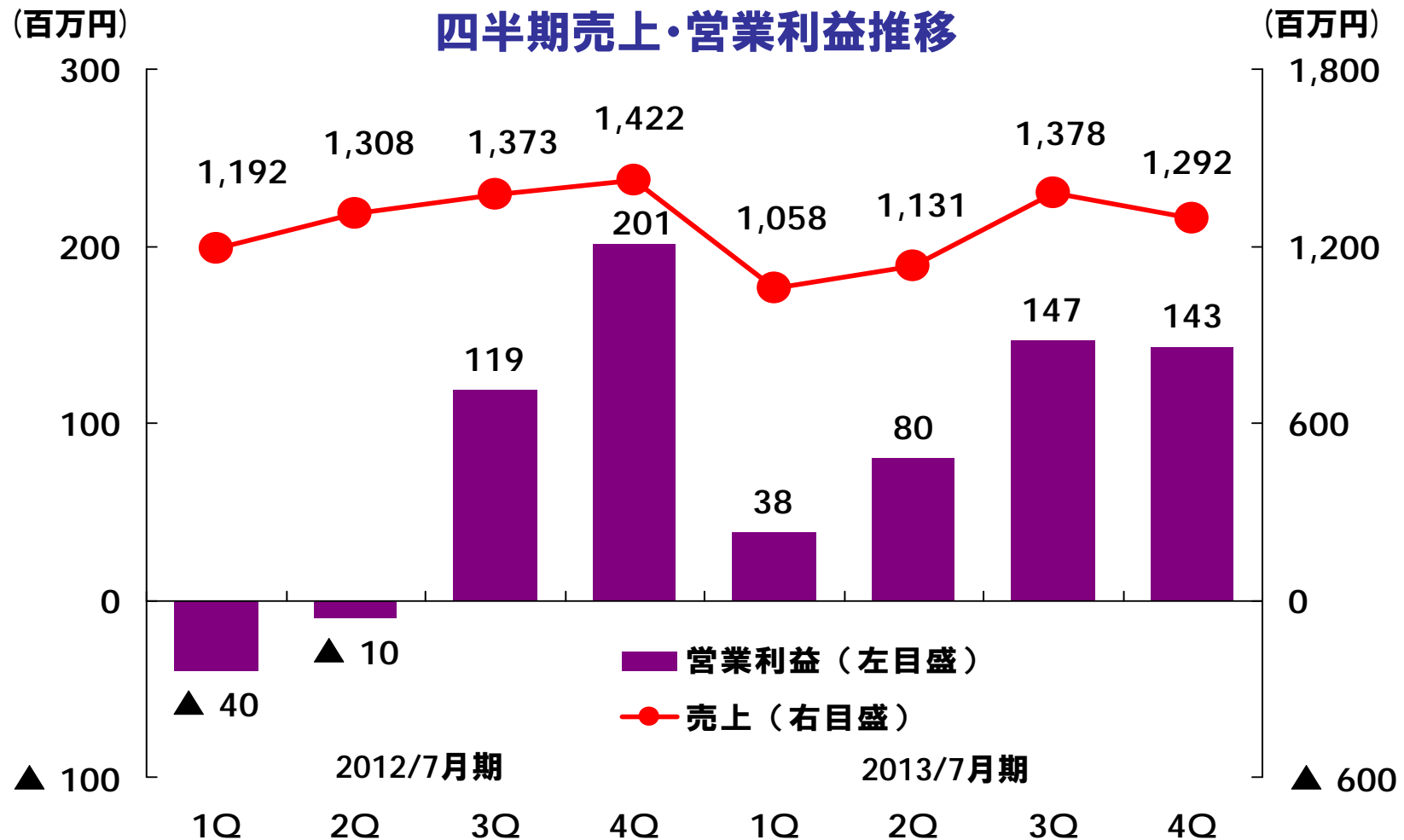
目次

1. 2013年7月期 決算概要
2. 2013年7月期 事業分野別の状況
3. 収益性改善の取組み
4. 2014年7月期 計画について
5. 参考資料～会社概要

1. 2013年7月期 決算概要

決算ハイライト

不採算事業の完全撤退により、収益性は大きく改善



決算キーポイント

不採算事業からの完全撤退、FPT破産決定

2012年4月 植物育成プラント事業を廃止

2013年7月 破産手続開始決定

新規事業 BtoC向け事業からの撤退

2012年3月 コンシューマー向け製品開発を中止

2013年 優位性を持って展開できる事業領域に特化
→美術館・博物館分野、メディカル分野、デバイス事業

コスト削減と円安による為替効果で売上総利益の改善

売上総利益率 売上比58.2% → 60.2% 2.0ポイントUP

2013年7月期 連結業績

(単位:百万円)

	2012/7期		2013/7期		増減	
	累計実績		累計実績		前年同期比	
	金額 [A]	売上比 (%)	金額 [B]	売上比 (%)	[B]-[A]	[B]/[A]-1 (%)
売上高	5,296	100.0	4,860	100.0	▲436	▲8.2
売上原価	2,216	41.8	1,934	39.8	▲281	▲12.7
売上総利益	3,080	58.2	2,925	60.2	▲154	▲5.0
販管費	2,810	53.1	2,515	51.8	▲294	▲10.5
営業利益	269	5.1	409	8.4	+139	+51.8
経常利益	211	4.0	352	7.3	+141	+66.6
当期純利益	▲115	▲2.2	453	9.3	+568	—

前年同期比

キーポイント

売上高



国内設備投資の動きが弱く、売上は減少

売上総利益



為替効果とコスト削減により改善

販管費



不採算事業の撤退、コスト削減により減少

営業利益



利益率の改善、販売管理費の削減で増益

当期純利益



黒字化へ

事業別の状況

(単位:百万円)

売上高	2012/7 期	2013/7 期	増減	
	累計実績 [A]	累計実績 [B]	前年同期比 [B] - [A]	前年同期比 [B] / [A] - 1(%)
LED照明事業	5,242	4,860	▲382	▲7.3
植物育成プラント事業	54	—	▲54	—

国内設備投資への動きは慎重だったため売上は減少、植物育成プラント事業は2012年4月をもちまして撤退し、LED照明事業のみとなりました。

(単位:百万円)

営業利益	2012/7 期	2013/7 期	増減	
	累計実績 [A]	累計実績 [B]	前年同期比 [B] - [A]	前年同期比 [B] / [A] - 1(%)
LED照明事業	408	409	+1	+0.3
植物育成プラント事業	▲140	—	—	—

売上総利益率の改善と販売管理費の削減により、営業利益は微増、植物育成プラント事業撤退により、不採算事業はなくなりました。

貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

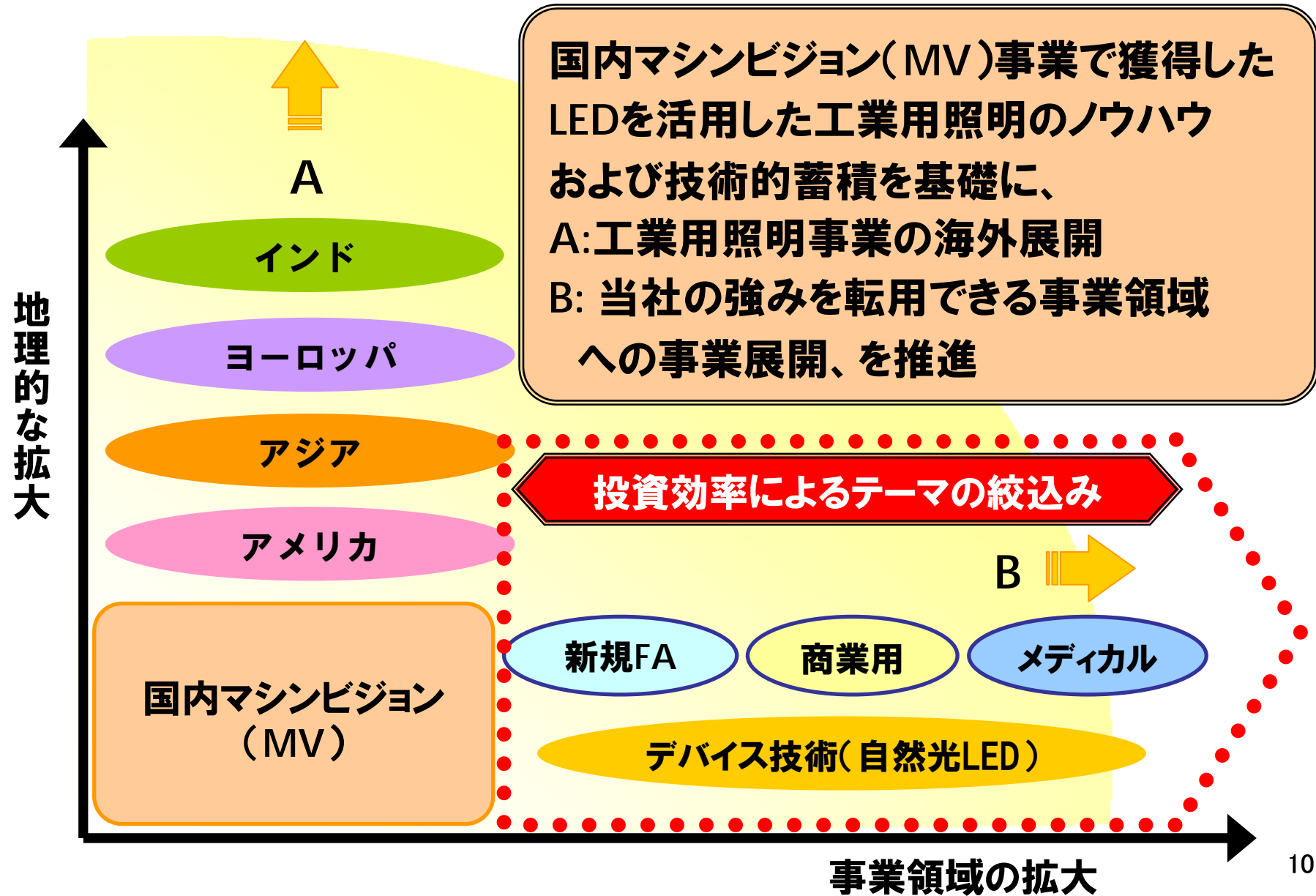
資産	12/7 期末	13/7 期末	負債・純資産	12 /7 期末	13/7 期末
現金及び預金	1,207	2,043	流動負債	2,146	1,913
受取手形及び売掛金	1,425	1,200	固定負債	1,447	1,070
たな卸資産	1,077	970			
その他	230	137			
流動資産合計	3,941	4,350	負債合計	3,593	2,983
有形固定資産	1,400	996	資本金	462	462
無形固定資産	56	57	資本剰余金	1,514	1,460
投資その他の資産	95	323	利益剰余金	93	845
			為替換算調整勘定	▲169	▲23
固定資産合計	1,553	1,377	純資産合計	1,900	2,744
資産合計	5,494	5,728	負債・純資産合計	5,494	5,728

FPT連結対象外となり、固定資産・固定負債ともに圧縮されました。

2. 2013年7月期 事業分野別の状況

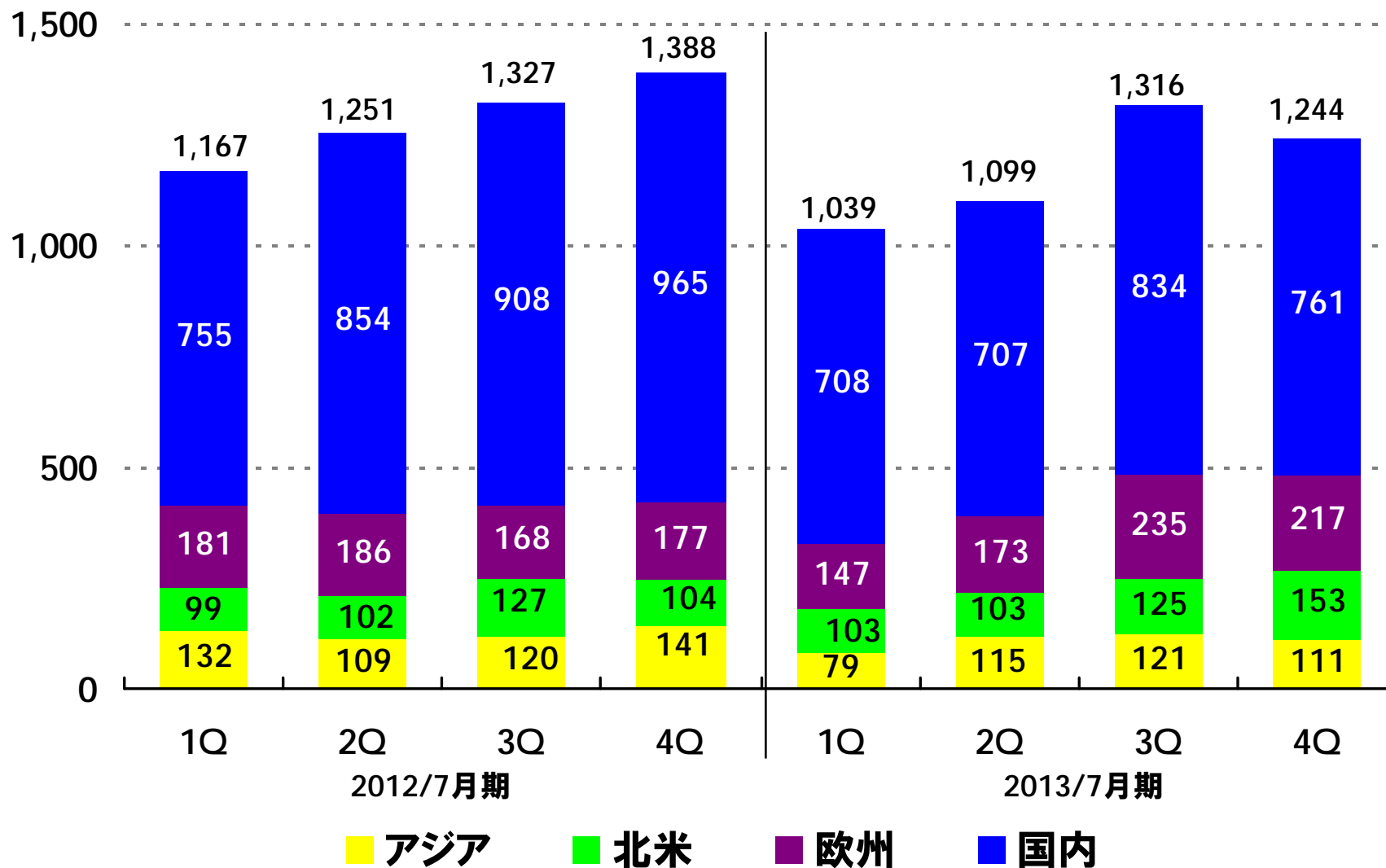
- ①事業推進の考え方
- ②工業用照明事業
- ③新規事業

① 事業推進の考え方



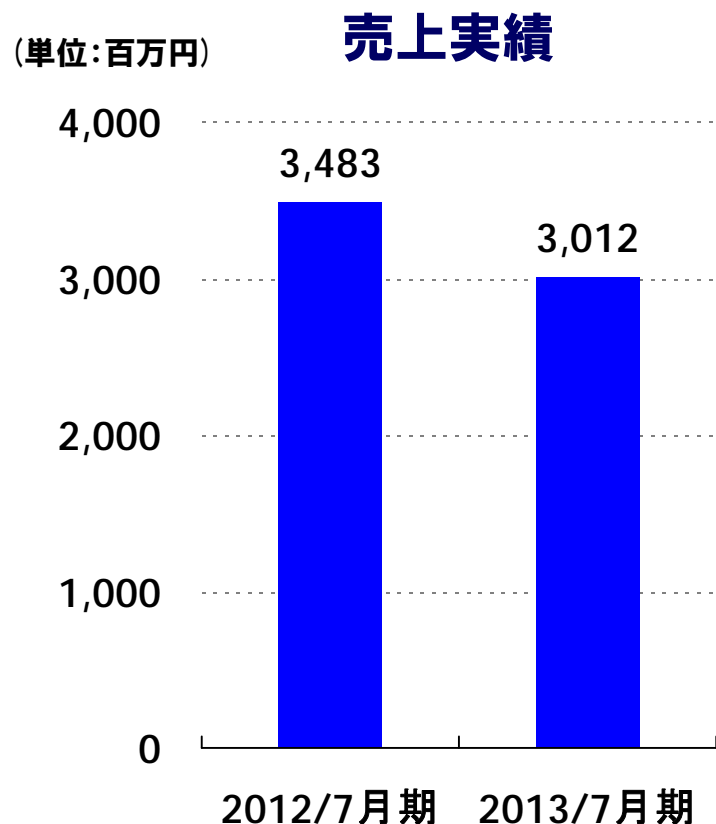
②工業用照明事業 地域別売上高(四半期毎)

(単位:百万円) (2012年7月期～2013年7月期)



②工業用照明事業 国内

■：2012/7期通期実績、2013/7期通期計画



<当社の状況>

- ✓ 円安など明るい兆しはあるものの設備投資の動きは弱く売上は減少
- ✓ 競争の激化

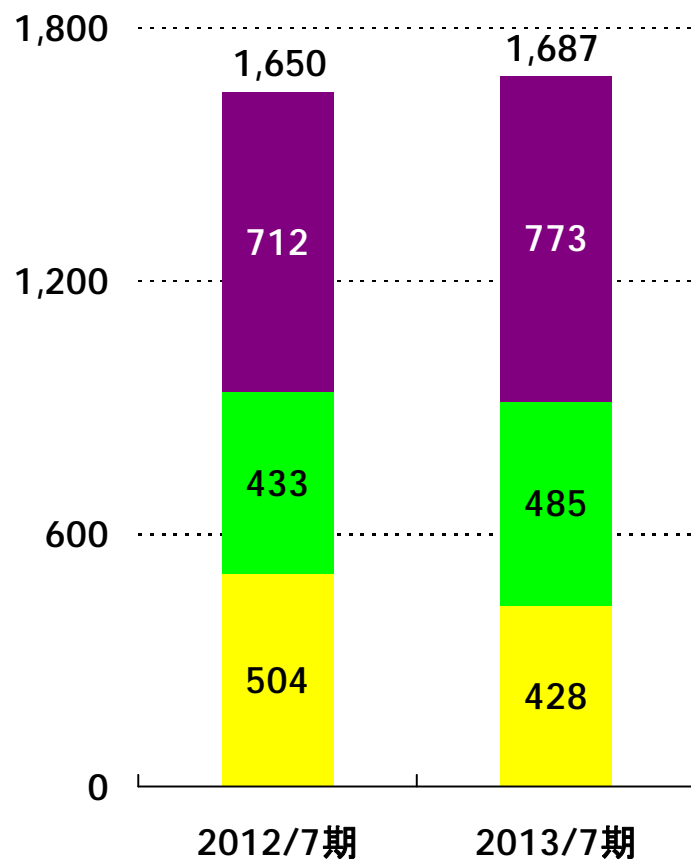
<対策>

- ✓ 新しい事業領域となるラインセンサ市場、UV照射器市場の開拓、製品投入を加速
 - ▶▶ 新規アプリ、新規顧客の開拓促進
- ✓ 営業体制の抜本の見直しによる責任の明確化、機動性の向上
 - ▶▶ 国内営業、海外営業との連携強化
 - ▶▶ 製品企画、開発のスピードアップ

②工業用照明事業 海外

(単位:百万円) ■ アジア ■ 北米 ■ 欧州

売上実績



<当社の状況>

- ✓ 欧州：経済危機の影響により不透明感は継続
しかし、12年11月を底に受注・売上は回復基調
- ✓ 北米：「財政の崖」の影響で厳しい状況が続いたが
年始より穏やかに回復の兆し
- ✓ アジア：中国市場での価格競争激化により
売上は減少

<対策>

- ▶▶ 中国LED照明メーカー、CST社との資本・
業務提携の協議を開始(2012年10月)

<2012/7期期末レート>

1USD=78.66円 1EUR=104.03円 1SGD=62.32円

<2013/7期期末レート>

1USD=89.44円 1EUR=116.3円 1SGD=72.08円

②工業用照明事業 新製品

事業領域拡大のための新製品を投入

新規顧客・新規アプリを開拓

①UV硬化用照射器市場に本格参入 (2013年1月発売)



HLUVシリーズ

業界最高水準の放射照度を達成した「HLUVシリーズ」を標準品第一弾として市場に投入、UV照射器*市場に本格参入

*UV照射器とはUV硬化樹脂を利用した接着に使用する照射器
(UV:紫外線、ultravioletの略)

②画像処理用高出力UV-LED照明 (2013年7月発売)

高出力UV-LEDを使用 蛍光観察の新たな可能性を拓く

UV-2シリーズ

可視光領域の光だけでなく、紫外光励起する物資の特性を利用した画像処理用照明

リング照明



バー照明



②工業用照明事業 施策

市場シェア拡大のため推進している施策

①国内施策

- ✓国内画像関連メーカー レボックス社との業務提携
 - ▶▶ 製品ラインアップ拡充、幅広いソリューションの提供、効率的な製品開発
- ✓営業体制の見直しによる機動性の向上
 - ▶▶ 海外進出企業のフォロー・サービス、国内・海外営業の連携強化
 - ▶▶ 東京営業所に試作機能を持たせ、顧客サービスの充実強化

②海外施策

- ✓LED照明メーカーCST(中国)との資本・業務提携に関する協議の加速
 - ▶▶ アジアをはじめとする海外市場ニーズ・規格に適合した製品投入
 - ▶▶ Middle-end、Low-endユーザーの取り込み
- ✓海外調達、海外生産の検討
 - ▶▶ 調達コスト、製造コストの見直し、削減

②工業用照明事業 中国マシンビジョン市場

CSTとの資本・業務提携による中国市場の押さえ込み

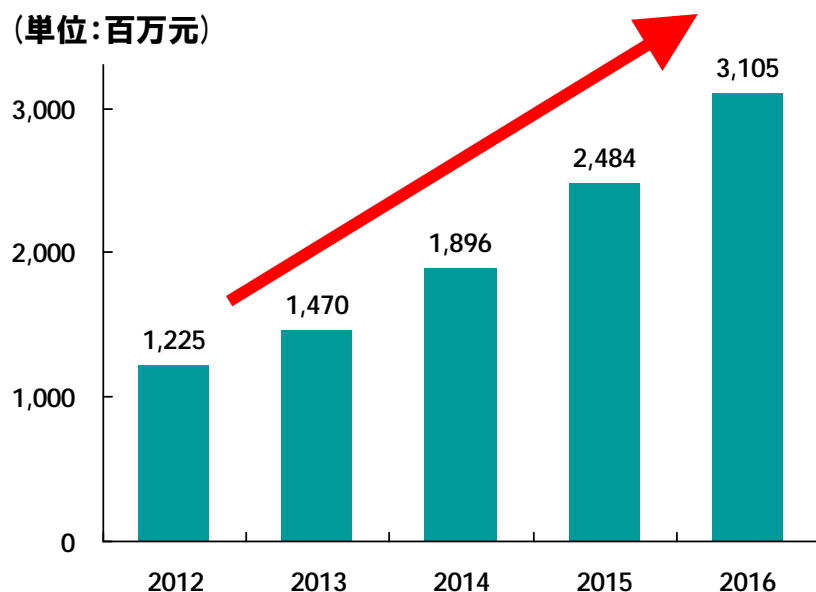
中国マシンビジョン市場：今後5年間、中国の経済成長は鈍化するものの、マシンビジョン市場は今後4年で年率平均25.3%成長

高成長の背景

品質重視：品質要求の高まりによる検査機器の需要の増加

人件費削減：人件費の上昇に対応するため、マシンビジョンによる生産効率の向上

中国マシンビジョン市場規模（予想） 2012年 中国マシンビジョン照明市場



*中国画像処理協会調べ

	売上(百万元)	構成比(%)
OPT	47	43.5
CST	31	29.0
CCS	16	14.5
OSE	6	5.8
その他	8	7.2
合計	108	100.0

43.5%

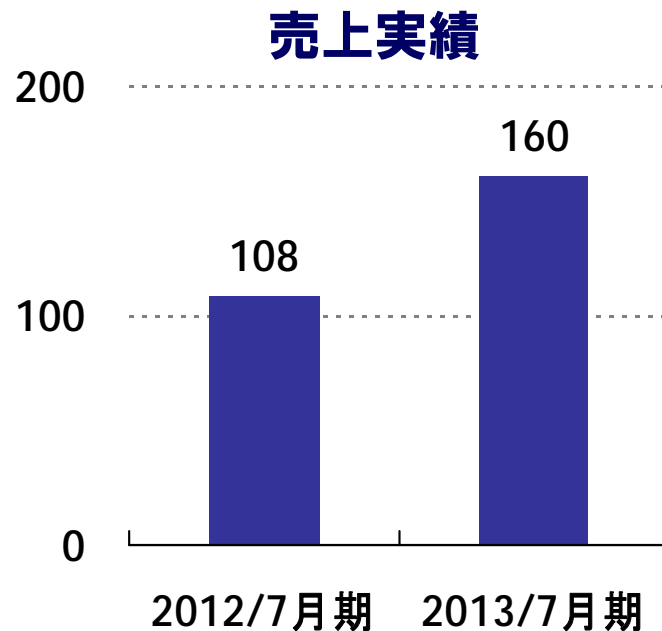
連合軍で
シェア奪還へ

*当社推計

③新規事業

■ 2012/7期通期実績、2013/7期通期計画

(単位:百万円)



＜当社の状況＞

✓美術館・博物館分野

美術館・博物館のほか、寺社へも提案
海外の展示会へ出展、海外へも展開中

✓メディカル分野

全国の代理店に営業展開中

✓アグリバイオ分野(フィリップスLED照明)

全国の植物工場等に対し、営業展開中

✓デバイス事業

自然光LEDおよびUVLEDデバイスの引き
合い増加、案件大型化、事業急拡大

③新規事業 美術館・博物館用照明

美術館・博物館用照明の取り組み

寺社にも展開

- ・當麻寺 特別拝観 灯荘嚴～LEDで拝する當麻寺のみほとけ（2013年4月）
伽藍三堂に収蔵されている弥勒仏坐像(国宝)などの展示用照明として採用



當麻寺 金堂内

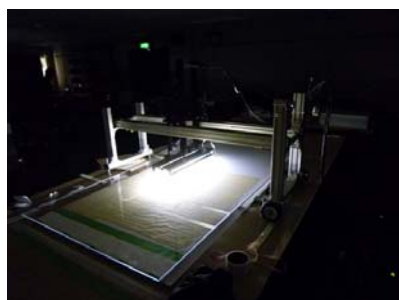
「自然光LED」を活かした製品を海外展開へ

- ・「Museum Expo（米国ボルチモアで開催）」に出展（2013年5月）
全米の美術館・博物館関係者に“自然光LED”を提案
- ・アメリカ文化財保存修復学会 第41回年次総会に出展(2013年5月)
「展示」のみならず「保存」の立場からも“自然光LED”を提案



「Museum Expo」展示会の様子

< 「自然光LED」搭載製品 >



高精細デジタルアーカイブ装置
“KUS北斎”
(ADS製)



展示用LED照明
“MUSEUM COB SPOT LIGHT”
(CCS製)

③新規事業 デバイス事業

デバイス事業：他社優位性・採算性のある事業に特化

LEDデバイス商材：「自然光LED」、「UV-LED」

100W電球

デスクスタンドなど

最終製品の開発を中止



トップメーカーへの提供

継続的に利益が見込めるターゲットに厳選

<案件例「自然光LED」>

・手術用照明

・デジタルカメラ用照明

など



・顕微用光源

<案件例「UV-LED」>

・ネイル硬化用照明

・歯科技工用照明

など



・LEDフォロースポットライト



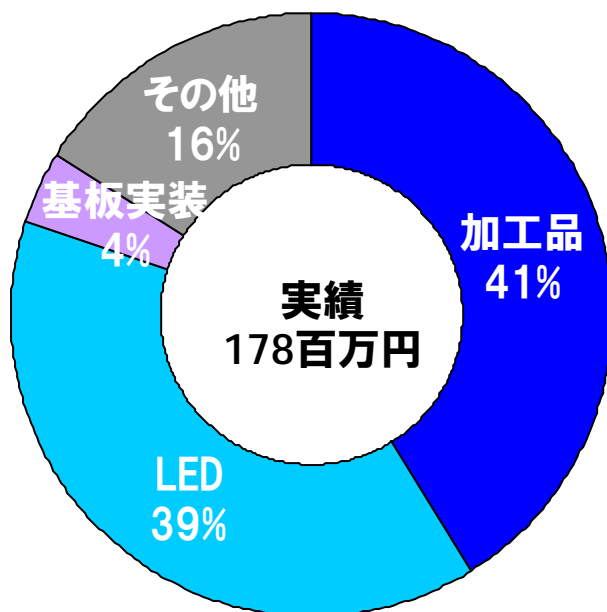
・ネイルジェル硬化用

3. 収益性改善の取組み

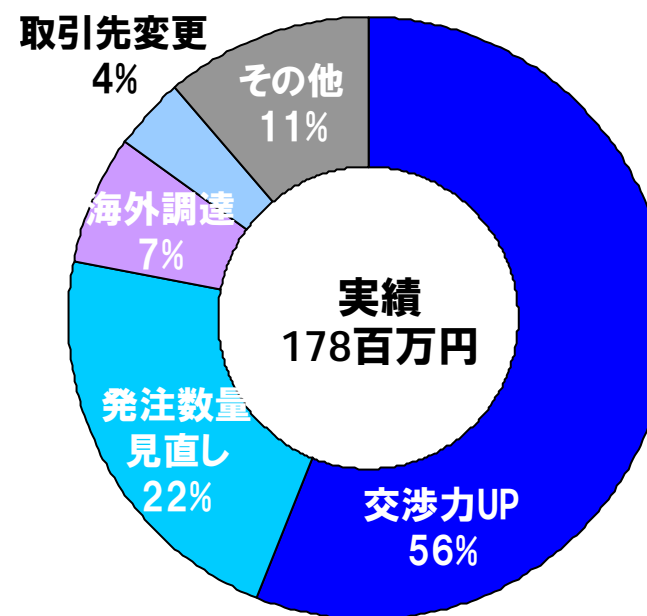
生産部門コストダウンの取組み

① コストダウン実績 178百万円

コストダウン 種類別



コストダウン 内容別



実施内容

- 価格交渉力強化によるコストダウン効果
- 勁草会(仕入先との協力)活動強化によるコストダウン効果
- 加工品の海外調達によるコストダウン効果

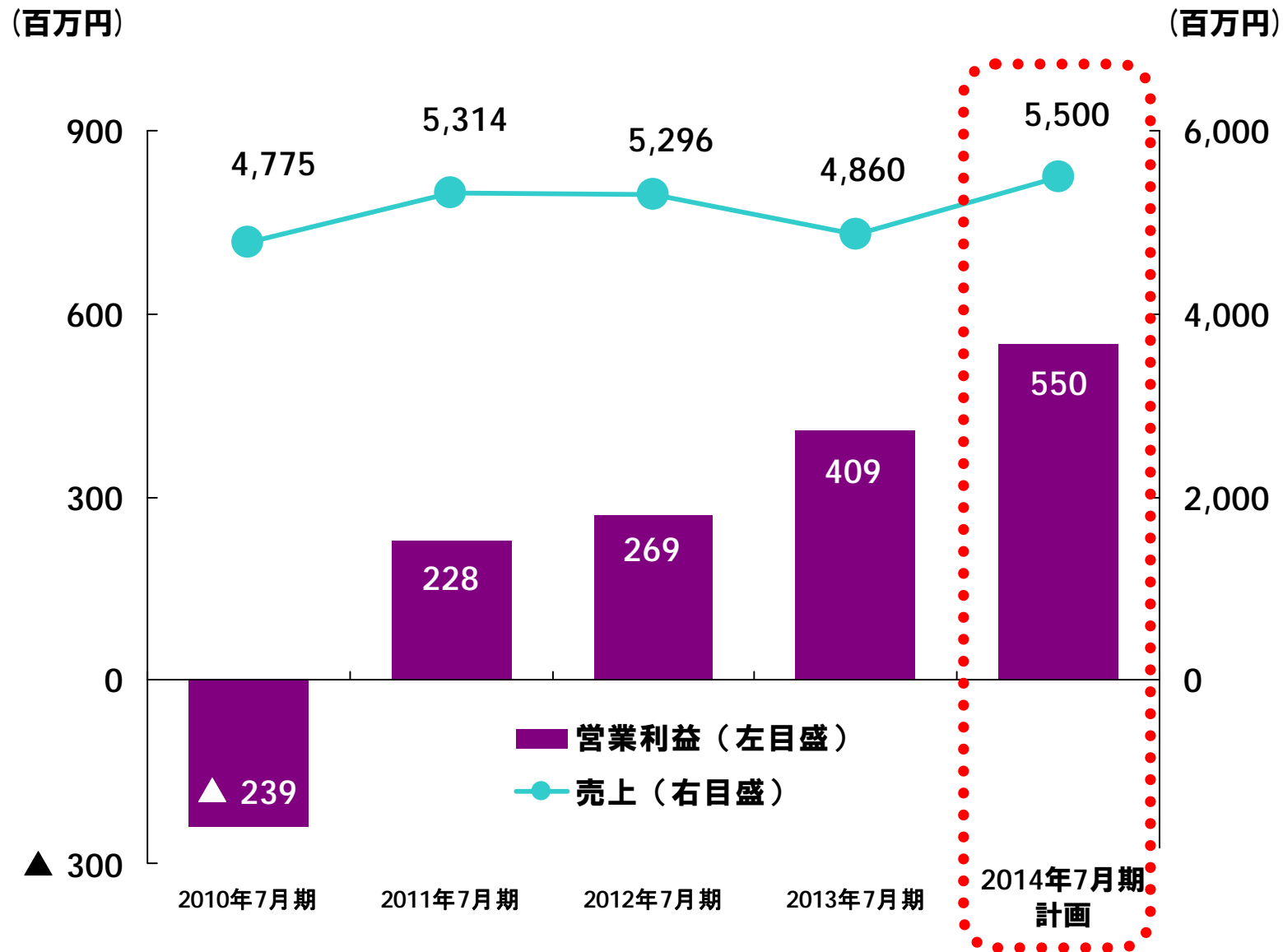
4. 2014年7月期 計画と施策について

2014年7月期計画(連結)

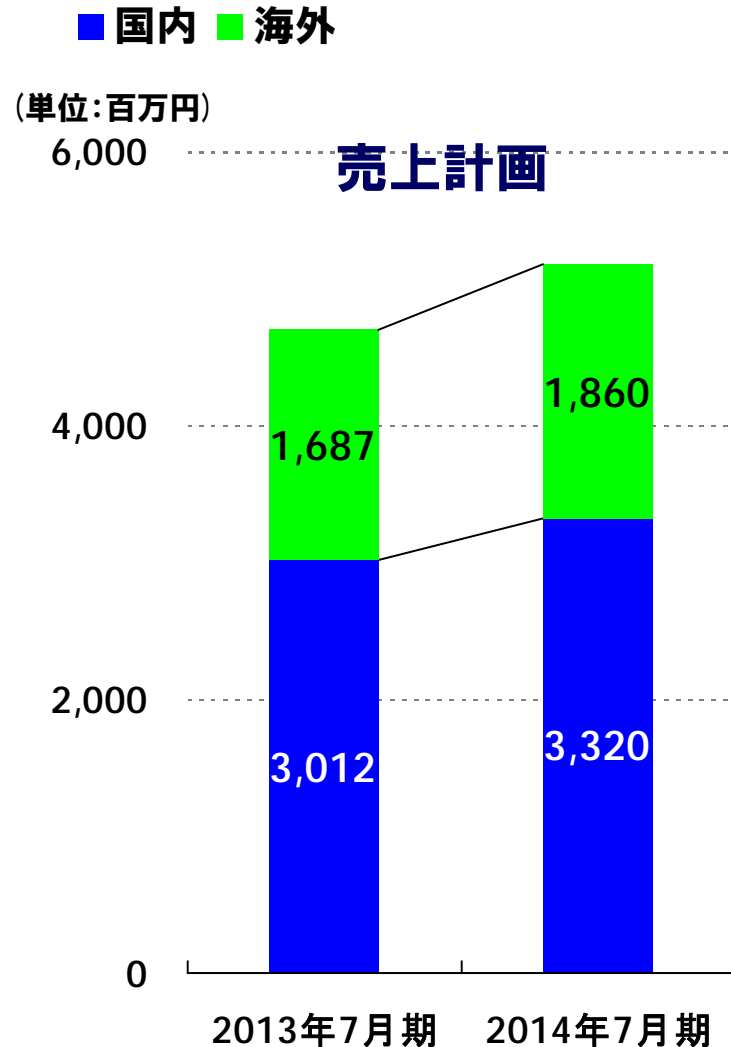
(単位:百万円)

	2013/7月期 実績		2014/7月期 計画		増減	
	金額 [A]	対売上比 (%)	金額 [B]	対売上比 (%)	[B]-[A]	[B]/[A]-1 (%)
売上高	4,860	100.0	5,500	100.0	+640	+13.2
売上総利益	2,925	60.2	3,230	58.7	+305	+10.4
販管費	2,515	51.8	2,680	48.7	+165	+6.6
営業利益	409	8.4	550	10.0	+141	+34.5
経常利益	352	7.3	500	9.1	+148	+42.0
当期純利益	453	9.3	430	7.8	▲23	▲5.1

売上高・営業利益の推移



計画と施策 工業用照明事業



<施策>

✓国内

UV硬化用照射器の本格販売開始
レボックス社等との業務提携の推進
変化する顧客ニーズに対応したサービス、
製品の提供

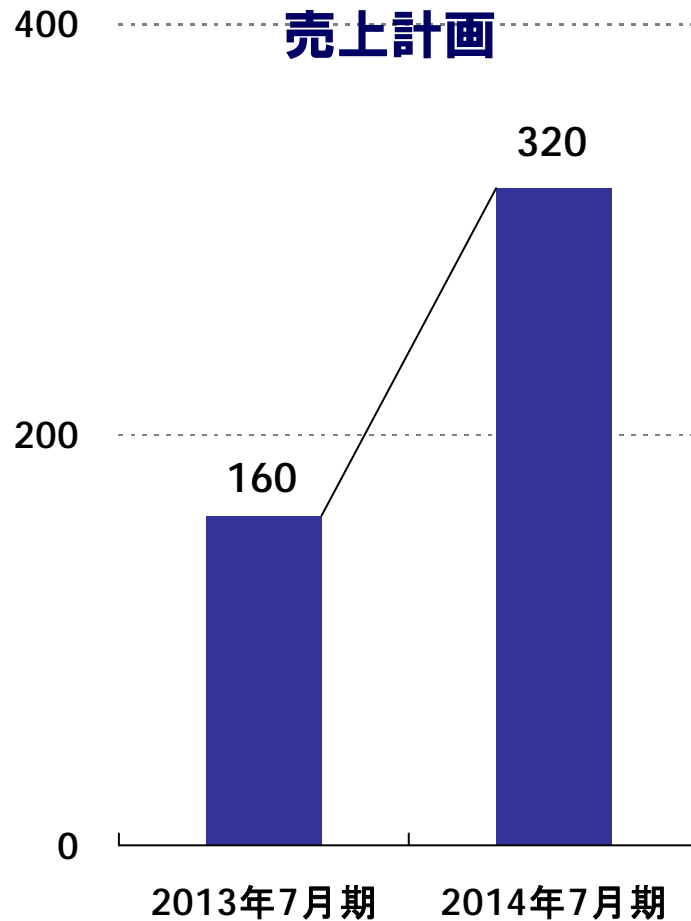
✓海外

欧米
現地代理店の積極活用
重要顧客との直販強化
北米南西部、南米へのアプローチ

アジア
CST社との業務提携の推進
アジア進出企業への支援強化
地域ニーズに合った製品開発

計画と施策 新規事業

(単位:百万円)



<施策>

- ✓美術館・博物館分野
ラインナップの拡充完了
販売の強化
- ✓メディカル分野
全国の代理店への営業を強化
- ✓アグリバイオ分野(フィリップスLED照明)
全国の植物工場等に対し、営業強化
- ✓デバイス事業
自然光LED、UV-LED等
デバイス商材の販売を本格化。
その他当社デバイスを使った商品も
多数上市計画中

1. 経営基盤の強化

- 1) 積極的なアライアンスによる売上/利益規模の追求
- 2) 収益力強化・収益率向上
- 3) 組織の戦力化

2. MV事業の強化と新規事業の堅実拡大

- 1) 総合力強化によるCCSブランド絶対的優位性の確立
- 2) 中国など海外市場への攻勢を強めて断トツシェア奪取
- 3) 出口を見据えた新規事業展開

3. 開発力の強化と革新

- 1) マーケティング力とシームレスに製品を生み出す企画力UP
- 2) 顧客要求のQCDへ満額回答出来る技術・生産力の強化
- 3) ライバルを凌駕する先を見据えたコア技術の先行開発

21期 全社スローガン

弛まぬ**変革**と飽くなき**挑戦**

5. 参考資料 ～会社概要～

Creative Customer Satisfaction

社是 : 『お客様に愛と感謝』

基本理念: 『光を科学し、社会に貢献する』

行動指針: 『すべてはお客様のために』

会社概要

- 商号 シーシーエス株式会社
- 本社所在地 京都府京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374
- 代表者 代表執行役社長 各務 嘉郎
- 創業 1992年
- 設立 1993年10月
- 資本金 462百万円
- 従業員数 205名(連結)、185名(単体)
- 発行済株式総数
普通株式 20,690株
A種優先株式 5,103株
- 株主数
普通株式 2,509名
A種優先株式 4名
- 連結子会社 CCS America Inc. / CCS Asia PTE.LTD./ CCS Europe NV./CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVT.LTD.
- 拠点数 国内 6ヵ所 / 海外(連結子会社含む) 7ヶ所



本社(京都市上京区)

(2013年7月末現在)

沿革

- 1992 創業
- 1993 シーシーエス株式会社設立
- 1999 CCS America Inc.(100%子会社)を設立(ボストン)
- 2000 東京営業所を開設(品川区高輪台)
- 2001 本社移転(現在の本社)
- 2003 上海事務所を開設(中国 上海市)
- 2004 ジャスダックに上場
RDV(S)PTE LTD社を子会社化(シンガポール)
CCS Europe NV(100%子会社)を設立(ベルギー)
- 2007 生産拠点と物流拠点を統合し、生産センターを開設(京都市下京区)
仙台テストングルームを開設(宮城県仙台市青葉区)
KRPで研究開発事務所を開設(京都市下京区)
山口大学との共同開発で「自然光LED」照明を開発
- 2008 シーシーエス光技術研究所を開設(京都市上京区)
深セン駐在員事務所を開設(中国広東省深セン市)
名古屋営業所を開設(名古屋市中村区)
植物育成プラント事業に参画することを目的としてフェアリープラントテクノロジー社
(2010年9月29日フェアリーエンジェル社より商号変更)を連結子会社化
- 2009 医療機器製造業および第三種医療機器製造販売業に関する許可を取得
- 2010 タイ・バンコクにCCS Asia PTE.LTD.駐在員事務所を開設
- 2011 CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVD.LTDを設立(インド)
- 2012 連結子会社であるフェアリープラントテクノロジーを解散
- 2013 連結子会社であるフェアリープラントテクノロジーの破産手続開始の決定

参考資料:LED開発の歩み

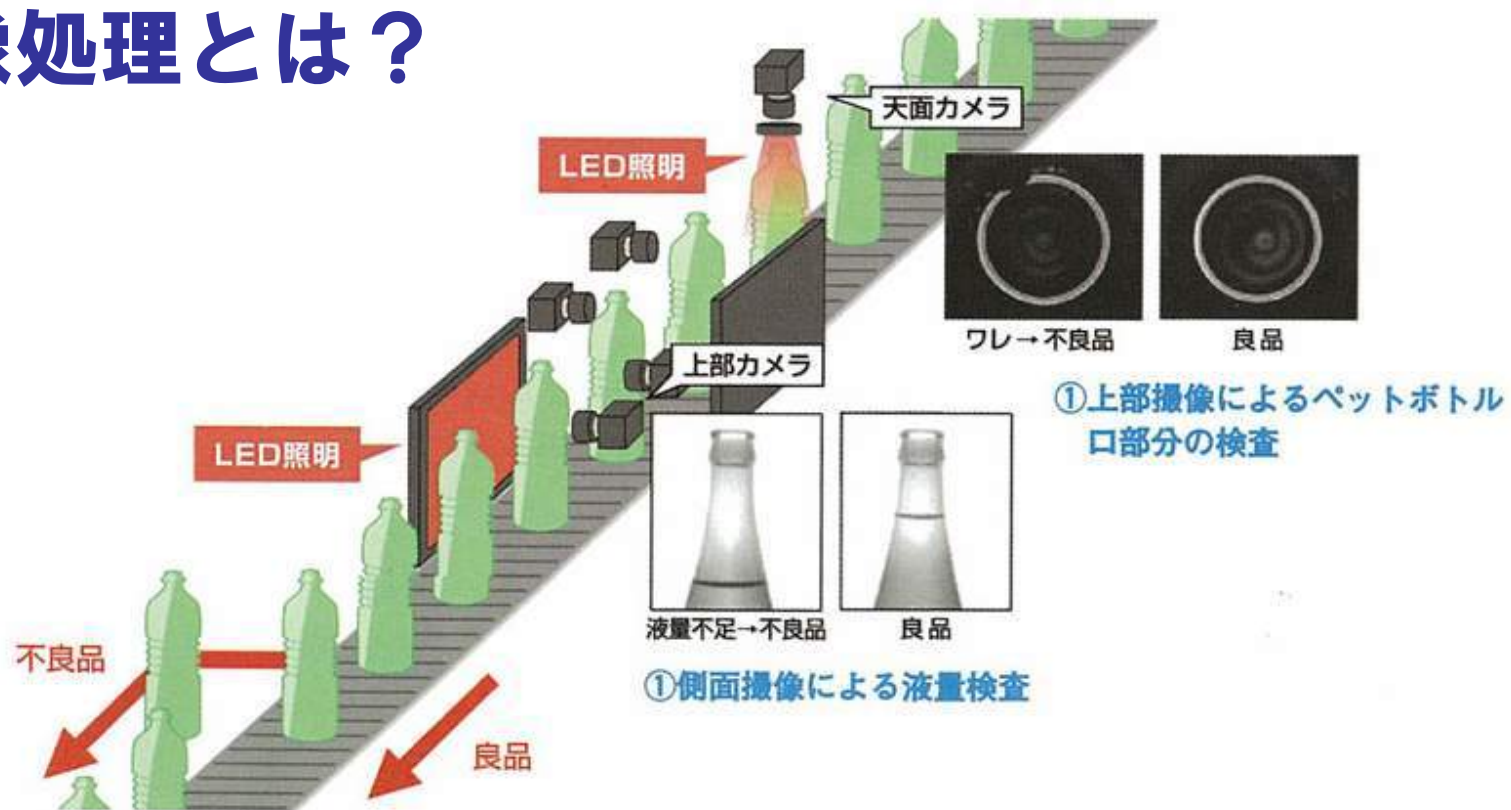
- 1962年 赤色と黄緑色が開発
- 1970年代 赤色と黄緑色が実用化
- 1993年 青色が製品化
- 1995年 純緑色の開発
光の三原色がそろそろ
- 1996年 白色が開発

- 現在 発光効率の向上
高演色性白色の開発

シーシーエスの主力事業

CCSは、画像処理用LED照明市場で国内・海外ともに
トップシェアを占める リーディングカンパニーです。

画像処理とは？

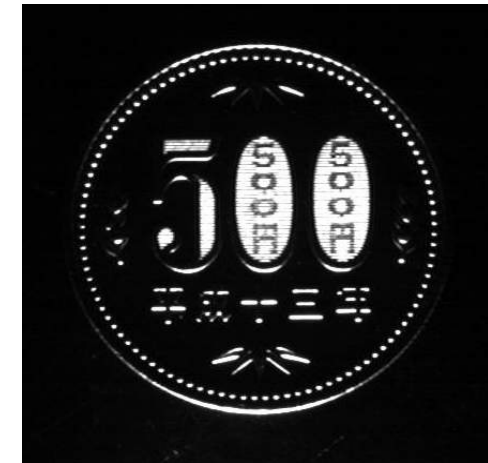
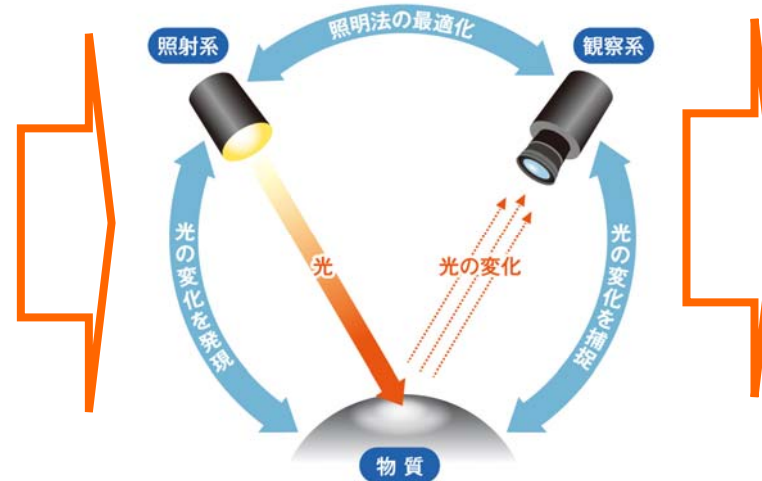


ライティングソリューションの重要性

<照明法の最適化>



流通している硬貨。
実際に検査しているものではありません。



伝搬方向を最適化
見えなかった、
500円の文字を抽出。

同じ対象物でも見え方が全く異なります。
この光の選び方が技術・ノウハウである、
「ライティングソリューション」です。

信頼の実績とサポート体制

- 50,000件以上のワーク撮像実績
- 約10,000機種のカスタム照明の設計・開発・製作
- 数百種類、数千台に及ぶ無料貸出機を準備
- エリア実験室、ラインセンサ用実験室を完備



エリア実験室



ラインセンサ用実験室

シーシーエスの事業領域

新規事業分野



商業分野

美術館・博物館用照明



工業用照明分野

マシンビジョン用照明分野

(エリア照明・ラインセンサ用照明)

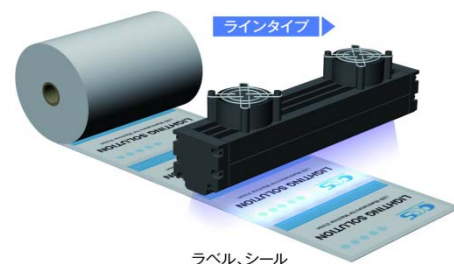


新規FA分野照明

(UV照射器

顕微鏡用照明)

■ UVインクの硬化



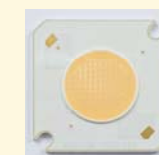
メディカル分野



アグリバイオ分野

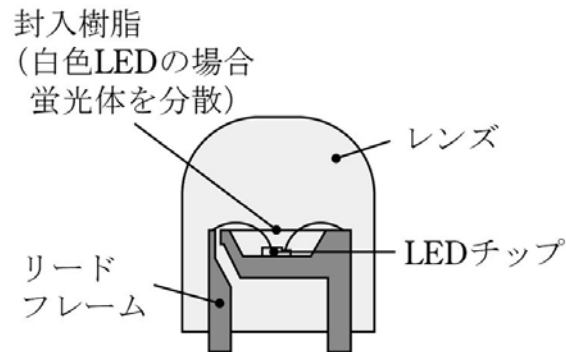


デバイス分野

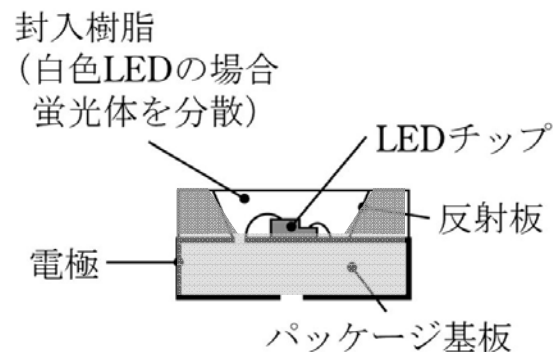


LEDの種類と構造

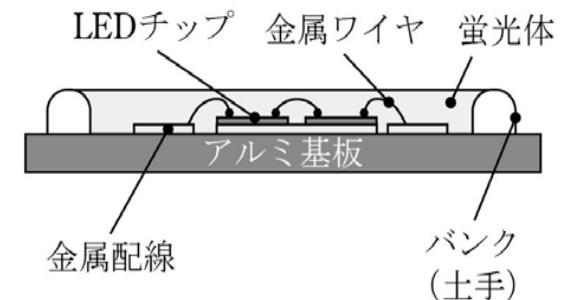
LEDは、LEDチップ、蛍光体、パッケージや封止樹脂などさまざまな部材を組み合わせ、複雑な光学現象、化学現象、構造力学現象をハンドリングしてつくりだされています。



砲弾型



表面実装(SMD)



チップオンボード(COB)

* 参照: 社会法人日本電気技術者協会 電気技術開設講座

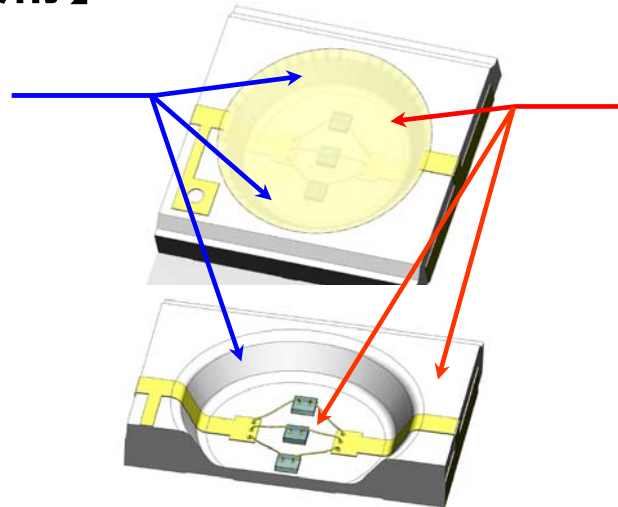
シーシーエスは、独自の技術で設計開発を行いオリジナルLEDの開発に取り組んでいます。

LEDデバイス技術

【SMDパッケージング技術】

高効率化

【蛍光体】
材料及び封止方法の最適化
【封止樹脂】
材料特性、表面形状の最適化
【リフレクタ形状最適化】
壁面高さ、角度、高反射率



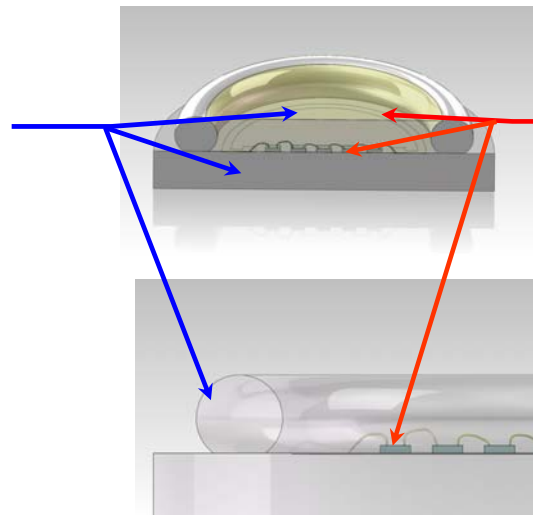
長寿命化

【封止樹脂】
耐熱・耐光性向上
【ボンディング材料】
耐熱・耐光性向上、高放熱性
【パッケージ材料】
高反射率、高放熱性

【COB実装技術】

高効率化

【蛍光体】
材料及び封止方法の最適化
【ダム材】
高反射率、成型化
【基板材料】
高反射率、高放熱



長寿命化

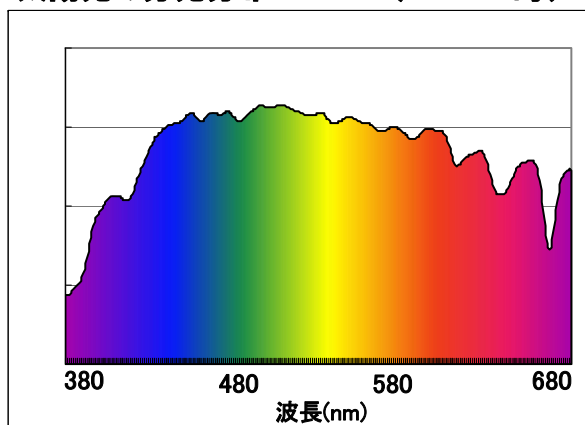
【封止樹脂】
耐熱・耐光性向上
【実装パターン】
狭ピッチ、高反射率
【ボンディング材料】
耐熱、耐光性向上、高放熱性

「自然光LED」とは

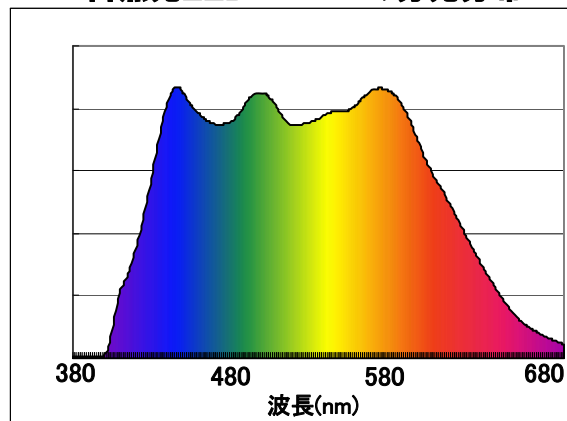


独自に開発した太陽光に近い光を再現する「自然光LED」
色の再現性を標準化・数値化した平均演色評価数*において、
業界最高クラス“Ra98”(相関色温度:5000 K)を達成

太陽光の分光分布 5200 K(AM:10時)

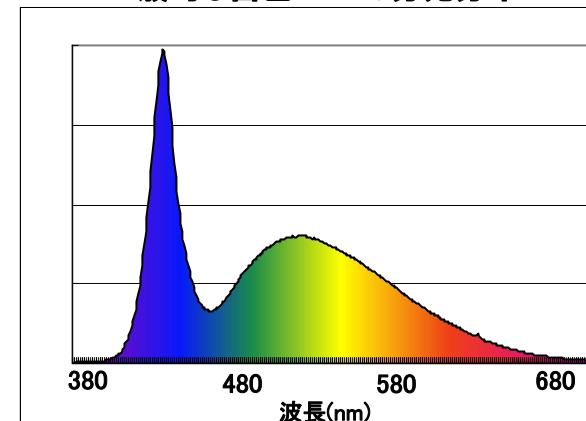


“自然光LED5000 K”の分光分布



太陽光に近い分光分布で物体の色を忠実に再現

一般的な白色LEDの分光分布



青色LEDの青が極端に強い

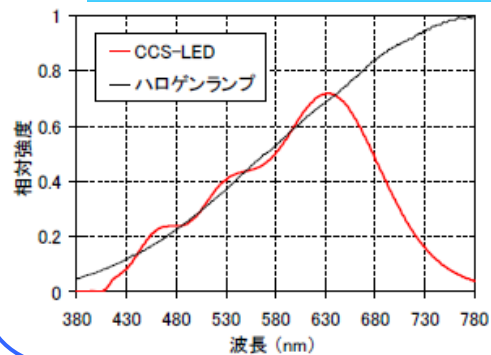


肌の色も自然に美しく魅せることができます

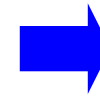
文化財保存修復学会 第35回大会 2013年7月

▶▶ P043 高演色性と低損傷性を兼ね備えたLED照明の開発と評価

ハロゲンランプと同等の分光分布を持つLED



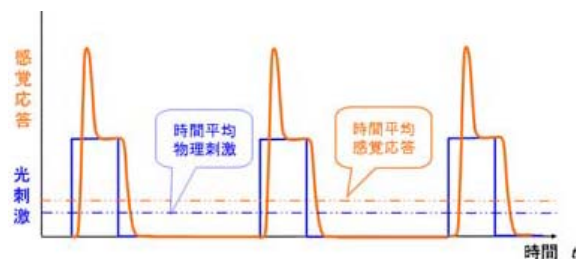
ハロゲンランプと比べて突出したピーク成分を持たず、損傷性の高い紫外線や、赤外線を含まない。



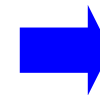
ハロゲンランプと同等の分光特性を持つLEDを開発し、高演色性と低損傷性を実験・理論的解析によって証明された。

▶▶ P044 文化財用低損傷パルス駆動LED照明

パルス駆動LED照明



Broca-Sulzer効果によって、実際の直流駆動よりも、明るく感じさせることができる。

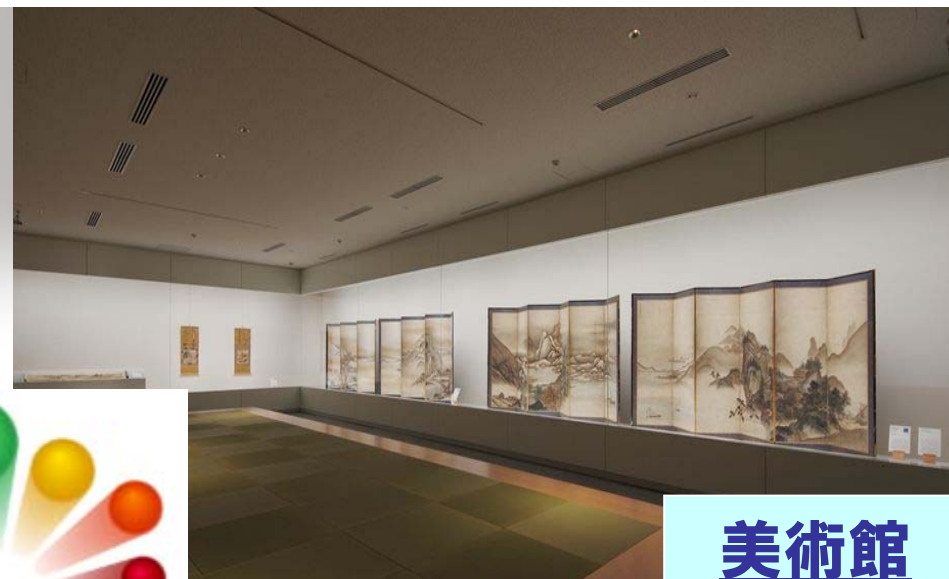


LED照明をパルス駆動することにより、肉眼での明るさ感を確保したまま、展示物への損傷を低減できることが検証された。

「自然光LED」搭載照明の商品化に注力



顕微鏡



美術館

生鮮食品などのショーケース用照明

光源から熱を出さず
生鮮食品を傷めず、店内の空調コストも抑制できます。

こんなに見え方が違います！
特に赤い野菜や果物は自然光LEDの光で色が鮮やかに見えます。もちろん、手も自然光LEDのもとでは肌の色がきれいに見えます。

自然光LED	従来の白色LED	電球灯

食品



ホテル・会場

設備投資・減価償却・研究開発費の推移



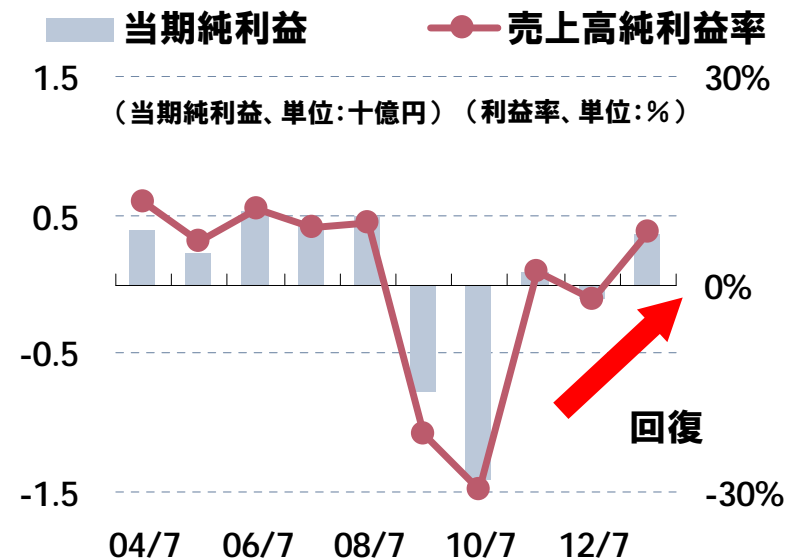
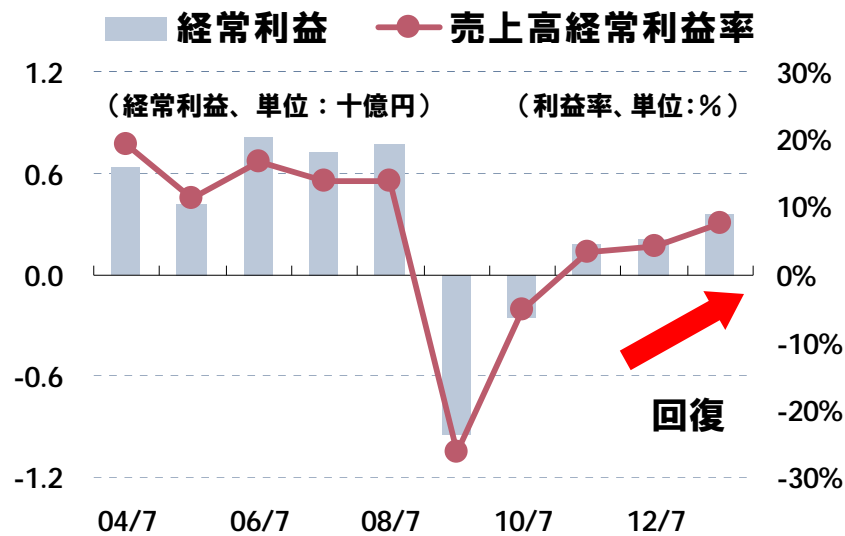
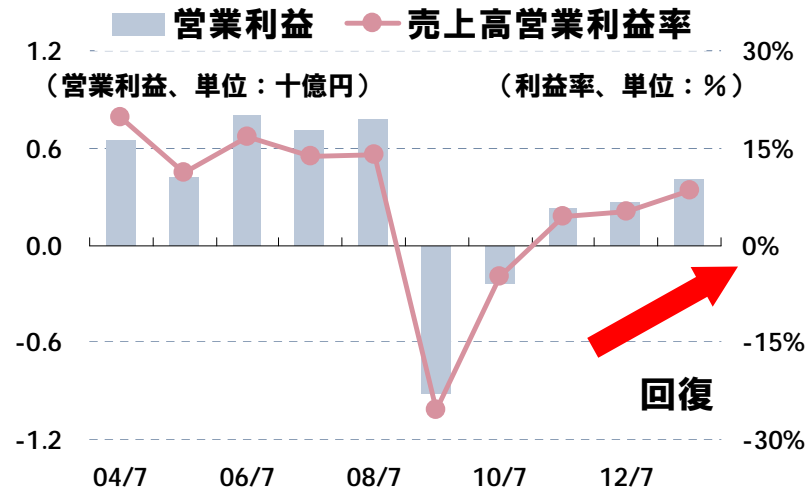
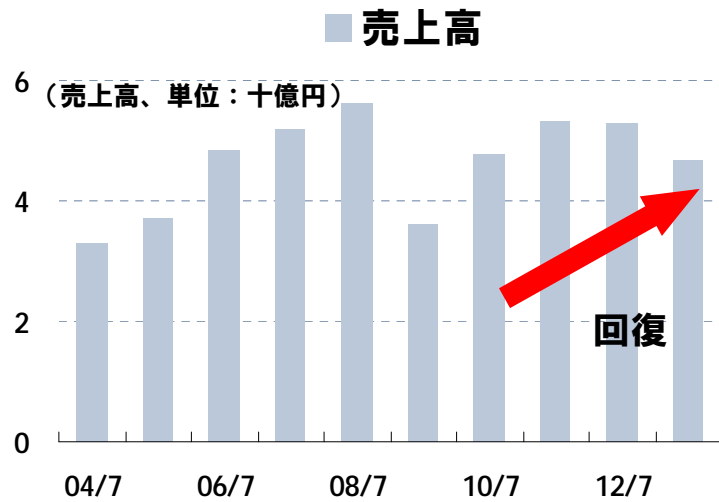
(単位：百万円)

	10/7 通期	11/7 通期	12/7 通期	13/7 通期	14/7 通期計画
設備投資	102	80	94	128	379
有形固定資産	68	61	77	103	245
無形固定資産	34	19	17	24	134
減価償却	355	166	145	124	170

(単位：百万円)

	10/7 通期	11/7 通期	12/7 通期	13/7 通期	14/7 通期計画
研究開発費	530	684	570	449	554
対売上比率	9.0%	12.9%	10.8%	9.3%	10.1%

業績・財務指標の推移(1)



業績・財務指標の推移(2)

